

様式第6号（第18条関係）

宮崎市地域コミュニティ活動交付金実績報告書

令和 6年 3月 25日

宮崎市長 清山 知憲 殿

主たる事務所の所在地	宮崎市田野町甲2818番地
名 称	田野まちづくり協議会
代 表 者 の 氏 名	松浦 繁盛
電 話 番 号	0985-69-0515

令和5年3月31日付で交付決定のありました宮崎市地域コミュニティ活動交付金については、宮崎市地域コミュニティ活動交付金に関する規則第18条第1項の規定により、関係書類を添えて実績報告書を提出します。

添付書類

- (イ) 事業実施報告書
- (ロ) 収支決算書又は収支決算見込書
- (ハ) 事業別収支計算書
- (ニ) 積立金管理状況報告書
- (ホ) その他

1 総括

令和5年度に入り、新型コロナウイルスの感染症法上の分類が、2類から5類に変更された。まだまだ予断を許さないものの、閉塞的な生活から以前の日常生活に戻り、それに伴って殆どの行事が復活し、活況を取り戻すことができた。

その中で特記すべきは、「駅前イルミネーション」の準備および片付けに今までにない多くの小中学生が参加してくれたことである。また、各団体・個人のご協力も得られて、各作業が順調にはかどり、町を挙げての協力態勢が確保できた。

一方、寺子屋においても、大学生の他に高校生や退職校長会の参加があり、充実した内容となった。この力をこれからの活動継続の礎としたい。

2 収支決算

(1) 収入の部

(単位：円)

項 目	予 算	決 算	差	備 考
地域コミュニティ活動交付金	2,873,000	2,873,000	0	
繰越金	1,337,878	1,337,878	0	
寄付金	0	110,000	110,000	田中漬物・桜屋旅館
参加者負担金	15,000	65,600	50,600	
売上金	0		0	
自己資金	122	25	▲ 97	
合 計	4,226,000	4,386,503	160,503	

(2) 支出の部

分野	事 業 名	実施年数	予 算	決 算	差	備 考
防	防犯・防災事業	15年目	158,000	94,012	▲ 63,988	
福	健康ふくしまつり共催事業	15年目	40,000	18,373	▲ 21,627	
福	福祉共催事業（地域ふれあい交流）	14年目	110,000	45,603	▲ 64,397	
福	高齢者・認知症サポート支援事業	6年目	20,000	6,120	▲ 13,880	
環	いこいの里山づくり事業	15年目	304,000	176,671	▲ 127,329	
再	鰐塚山山開き事業	12年目	25,000	13,335	▲ 11,665	
再	田野しっちゃが祭り活性化事業	11年目	343,000	135,921	▲ 207,079	
再	田野駅活性化事業	13年目	425,000	370,729	▲ 54,271	
再	特産品開発事業	12年目	75,000	29,868	▲ 45,132	
再	田野マルシェ事業	7年目	330,000	189,417	▲ 140,583	
健	イベント共催事業	15年目	50,000	7,164	▲ 42,836	
教	世代間交流事業	9年目	100,000	19,000	▲ 81,000	
教	寺子屋事業	8年目	300,000	180,725	▲ 119,275	
他	広報事業	15年目	553,000	483,576	▲ 69,424	
他	フォトカレンダー事業	13年目	134,000	130,178	▲ 3,822	
他	リーダー育成事業	1年目	100,000	76,620	▲ 23,380	
他	まちづくり協議会運営事業	15年目	1,159,000	954,853	▲ 204,147	
合 計			4,226,000	2,932,165	▲ 1,293,835	
繰 越 金				1,454,338		
総 計			4,226,000	4,386,503	160,503	

3 実施報告

[1] 防犯・防災に係る事業

事業名	防犯・防災事業	実施年数	15年目												
事業期間	開始：平成21年度	終了： 年度													
地域魅力発信 プランとの関連	<u>基本目標</u> 子どもから高齢者まで笑顔はぐくむまち <u>基本項目</u> <u>2. 安心安全なまちづくり</u> ◎防犯パトロール														
目 的 (期待される効果)	地域住民が安心して暮らせる安全なまちづくりのため、青色パトロール・学童見守りの活動を通じて、犯罪を抑制し、子どもたちの健全育成に努める。地域住民が安心して暮らせる安心・安全なまちづくりを目指す。														
事業内容・手段	(1) 青パト隊員28名による防犯パトロールを週4日（月・火・木・金）実施した。（原則2名体制） (2) 青色パトロール講習会 会 場：田野文化会館 実施日：令和6年1月31日(水) 内 容：南警察署による青パト講習会を実施した 参加人数： 17名 (3) 見守り隊員20名による学童見守りを行った。 ※毎週月曜日～金曜日 午前7時15分～7時50分 ※2名体制で大石百貨店前交差点で実施 ※見守り隊員以外に、PTAも参加協力														
事業費	94,012円														
対 象 者	地域住民・小中高学生														
参加者数 (内訳)	<table><tr><td>年 度</td><td>令和5年度</td><td>令和4年度</td></tr><tr><td>防犯パトロール</td><td>334人</td><td>299人</td></tr><tr><td>学童見守り</td><td>398人</td><td>402人</td></tr><tr><td>合 計</td><td>732人</td><td>701人</td></tr></table> ※延べ人数			年 度	令和5年度	令和4年度	防犯パトロール	334人	299人	学童見守り	398人	402人	合 計	732人	701人
年 度	令和5年度	令和4年度													
防犯パトロール	334人	299人													
学童見守り	398人	402人													
合 計	732人	701人													
住民の声（アンケートの結果等）	・ 青パト、子どもの見守り活動を通して地域住民が安心して暮らせている。 ・ 大石商店での見守り活動が、朝の「日常風景」として車通勤者に温かく受け入れられている。														

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項		評価項目		評価		特記事項	
		本年度	前年度					本年度	前年度		
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A	毎日見守り活動を行うことで、地域で地域の安全を守っているという認識ができています。	広報 事業の効果	⑤事業の周知	B	B	・ 田野紙 ・ SNS ・ 小学校PTAにも継続的に協力要請している。		
	②住民の参加	A	A	高齢化による人数減少もあるが、新たな加入者もあり、認識の高さを感じる。		⑥課題解決への作用	B	B	田野小PTAや自治会からの協力を得ているが、更なる会員増に努めたい。		
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	地域の安心安全のため、妥当である。		⑦住民の満足度	A	A	青パト・見守り活動は地域の安心・安全のため、防犯の観点からも重要である。		
	④各種団体との連携	A	A	小学校PTAや自治会の参加が継続しており、連携がうまくいっている。		事業継続の必要性 有 ・ 無					
良かった点・改善点等		<良かった点や改善した点等> ・ 他の部会や会員のご家族の参加が得られ、高齢化による減員の補填が得られた。									
地域協議会からの意見への対応		<地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）> <意見への対応>							対応	未 ・ 済	

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

[2]地域・福祉に係る事業

事業名	健康ふくしま祭り共催事業	実施年数	15年目												
事業期間	開始：平成21年度	終了：	年度												
地域魅力発信 プランとの関連	基本目標 子どもから高齢者まで笑顔はぐくむまち 基本項目 3. 健康福祉の充実 ◎健康ふくしま祭りでの啓発 ◎防災意識の啓発														
目的 (期待される効果)	各種団体と連携して、健康ふくしま祭り時にまちづくり協議会ブース（防災コーナー）を設け、安心・安全なまちづくりの推進を図る。防災意識の薄い町民に、住民一人一人がいざという時の助け合いの心を共有する。														
事業内容・手段	(1) たの健康ふくしま祭り第一回実行委員会 5月17日(水) 内 容：①開催概要(案)・収支予算(案)について ②たの健康ふくしま祭り実施内容について (2) たの健康ふくしま祭り第二回実行委員会 6月7日(水) 内 容：令和5年度健康ふくしま祭りの詳細の打合せ (3) たの健康ふくしま祭り第三回実行委員会 7月26日(水) 内 容：令和5年度の健康ふくしま祭りの詳細の決定 (4) たの健康ふくしま祭り第四回実行委員会 9月20日(水) 内 容：令和5年度健康ふくしま祭りの詳細確認 (5) たの健康ふくしま祭り 開催 ・開催日：10月15日(日) 場所：ふれあいセンター ※当協議会は防災グッズの展示及び保存食品の配布 (6) たの健康ふくしま祭り第五回実行委員会 11月29日(水) 内 容：令和5年度健康ふくしま祭りの報告・収支報告・反省 (7) たの健康ふくしま祭り 実行委員会 内 容：令和6年度健康ふくしま祭り 開催について決定 ・開催日：11月17日(日)10時～ 場所：ふれあいセンター														
事業費	18,373円														
対象者	地域住民・健康ふくしま祭りの参加者														
参加者数 (内訳)	<table><tr><td>年 度</td><td>令和5年度</td><td>令和4年度【中止】</td></tr><tr><td>一般参加者</td><td>500人</td><td>人</td></tr><tr><td>スタッフ</td><td>3人</td><td>人</td></tr><tr><td>合 計</td><td>503人</td><td>人</td></tr></table>			年 度	令和5年度	令和4年度【中止】	一般参加者	500人	人	スタッフ	3人	人	合 計	503人	人
年 度	令和5年度	令和4年度【中止】													
一般参加者	500人	人													
スタッフ	3人	人													
合 計	503人	人													
住民の声（アンケートの結果等）															

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項		評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度					本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A	地域の各種団体が参加し、地域最大の福祉行事である。	事業の効果	広報	⑤事業の周知	B	-	・新聞折込み ・田野紙
	②住民の参加	B	-	関連団体・幼稚園・保育園の参加により保護者が幅広く参加		⑥課題解決への作用	A	-	見学者に対して、防災の危機意識を提起する良い機会となった。	
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	各種団体と連携して実施することで、事業展開にもつながる。		⑦住民の満足度	A	-	一部の市民に防災意識の向上が見られた。	
	④各種団体との連携	A	A	社協・市・児童センター・保育会・民生委員・学校など、多くの団体が参加している。	事業継続の必要性				有 ・ 無	
良かった点・改善点等		＜良かった点や改善した点等＞ ・今回、防災グッズを展示。特に、主婦層にはトイレ処理関連商品に関心が高く、多くの参加者に危機意識を喚起できたように思う。これからの課題は『体験型』や視覚に訴え、災害が他人事ではない事を広く知らしめたい。								
地域協議会からの意見への対応		＜地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）＞						対応	未 ・ 済	
		＜意見への対応＞								
地域協議会からの意見への対応		＜地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）＞						対応	未 ・ 済	
		＜意見への対応＞								

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

[2]地域・福祉に係る事業

事業名	福祉共催事業（地域ふれあい交流）	実施年数	14年目												
事業期間	開始：平成22年度	終了：	年度												
地域魅力発信 プランとの関連	<u>基本目標</u> 子どもから高齢者まで笑顔はぐくむまち <u>基本項目</u> 1. <u>三世代交流</u> ◎高齢者の集う場所を設け、世代間交流を図る 3. <u>健康福祉の充実</u> ◎世代間交流を図り、思いやりのある福祉のまちをつくる														
目的 (期待される効果)	家にこもりがちな高齢者の集う場所を設けることにより、地域のニーズ把握や高齢者相互及び世代間の交流を図り、思いやりのある福祉のまちをつくる。														
事業内容・手段	(1) 第1回田野地域ふれあい交流実行委員会 会 場：田野文化会館 実施日：令和5年7月4日（火） 内 容：令和5年度ふれあい交流の開催について (2) 第2回田野地域ふれあい交流実行委員会 会 場：田野文化会館 実施日：令和5年10月13日（金） 内 容：令和5年度ふれあい交流の詳細について検討 (3) 田野地域ふれあい交流 開催 会 場：田野文化会館 実施日：令和5年12月3日（日） 内 容：町内75歳以上の高齢者を対象に交流会を開催する まちづくり写真館として写真を撮影し、帰りに渡す														
事業費	45,603円														
対象者	地域住民（75歳以上の高齢者）														
参加者数 (内訳)	<table><tr><td>年 度</td><td>令和5年度</td><td>令和4年度【中止】</td></tr><tr><td>一般参加者</td><td>200人</td><td>人</td></tr><tr><td>スタッフ</td><td>50人</td><td>人</td></tr><tr><td>合 計</td><td>250人</td><td>人</td></tr></table>			年 度	令和5年度	令和4年度【中止】	一般参加者	200人	人	スタッフ	50人	人	合 計	250人	人
年 度	令和5年度	令和4年度【中止】													
一般参加者	200人	人													
スタッフ	50人	人													
合 計	250人	人													
住民の声（アンケートの結果等）	・多くの高齢者が喜んで写真館に来場され、個人撮りの他、思い出作りに友だちとの集合写真も撮られて喜んで頂いていた。また、撮影した写真を「即日お渡し」も好評であった。														

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項		評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度					本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A	田野町で敬老の日 に開催される高齢者の交流の場として浸透している。	広報 事業の効果	⑤事業の周知	B	-	・自治会回覧 ・新聞チラシ ・まち協だより	
	②住民の参加	B	-	コロナの影響もあり、参加が期待ほどなかった。		⑥課題解決への作用	B	-	長年続いている行事で、高齢者の交流の場となっている。	
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	まちづくり写真館を運営し、高齢者に喜ばれている。		⑦住民の満足度	B	-	毎年、ステージ、写真館、抽選会と楽しみにされている。	
	④各種団体との連携	A	A	田野町地域婦人連絡協議会・自治会・民生委員と連携している。		事業継続の必要性				有 ・ 無
良かった点・改善点等		<良かった点や改善した点等>								
地域協議会からの意見への対応		<地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）>						対応	未 ・ 済	
		<意見への対応>								
地域協議会からの意見への対応		<地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）>						対応	未 ・ 済	
		<意見への対応>								

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。
その際、「対応」の欄が『』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『』になった場合は、
次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

[2]地域・福祉に係る事業

事業名	高齢者・認知症サポート支援事業	実施年数	6年目																				
事業期間	開始：平成30年度	終了：	年度																				
地域魅力発信 プランとの関連	<u>基本目標</u> 子どもから高齢者まで笑顔はぐくむまち <u>基本項目</u> <u>2. 安心安全なまちづくり</u> ◎声かけ見守り <u>3. 健康福祉の充実</u> ◎認知症になっても地域で安全に暮らせるような福祉の充実																						
目的 (期待される効果)	各種団体と連携して、認知症になっても住み慣れたまちで暮らすことができるようなまちづくりを目指す。																						
事業内容・手段	(1) 認知症見守り声掛け模擬訓練（包括ケア推進委員会との共催） 会 場：仏堂園公民館 及び 周辺 実施日：令和5年10月29日(日) 対 象：仏堂園地区 内 容：認知症について基本的な知識や対応の仕方を学んだ後 その知識を生かし、設定されたコース内での認知症役 の人に「声かけ、通報」までの模擬訓練を実践した。																						
事業費	6,120円																						
対象者	法光坊自治会・その他地域住民																						
参加者数 (内訳)	<table><tr><td colspan="4">(2) 声かけ見守り模擬訓練</td></tr><tr><td>年 度</td><td>令和5年度</td><td colspan="2">令和4年度</td></tr><tr><td>一般参加</td><td>60人</td><td colspan="2">26人</td></tr><tr><td>スタッフ</td><td>24人</td><td colspan="2">25人</td></tr><tr><td>合 計</td><td>84人</td><td colspan="2">51人</td></tr></table>			(2) 声かけ見守り模擬訓練				年 度	令和5年度	令和4年度		一般参加	60人	26人		スタッフ	24人	25人		合 計	84人	51人	
(2) 声かけ見守り模擬訓練																							
年 度	令和5年度	令和4年度																					
一般参加	60人	26人																					
スタッフ	24人	25人																					
合 計	84人	51人																					
住民の声（アンケートの結果等）	・認知症の方に接する時の注意点を学べた。 ・声かけの難しさや警察への伝え方などを知ることができた。 ・今回も参加者の年齢層が高いので、若い人も参加してほしい。																						

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A	認知症の方が地域で暮らし続けられるように、地域で見守ることは重要である。	広報	⑤事業の周知	A	A	自治会及び支援センター関係者他を通じて連絡。
	②住民の参加	A	A	「模擬訓練」を実施し、仏堂園地区の住民の参加を得られた。		事業の効果	⑥課題解決への作用	A	A
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	高齢化社会を迎えるにあたり、安心安全なまちづくりを進めるために重要である。			⑦住民の満足度	A	A
	④各種団体との連携	A	A	包括支援センター、わにつか荘との連携ができた。	事業継続の必要性				有 ・ 無
良かった点・改善点等		<良かった点や改善した点等> ・住民の方も一生懸命取り組んでおり、他の地区においても更なる広がり期待したい。							
地域協議会からの意見への対応	<意見への対応>						対応	未 ・ 済	
	<地域協議会からの意見（平成 年 月 ・ ）>						対応	未 ・ 済	
		<意見への対応>						対応	未 ・ 済

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

[3] 環境に係る事業

事業名	いこいの里山づくり事業	実施年数	15年目												
事業期間	開始：平成21年度	終了：	年度												
地域魅力発信 プランとの関連	<u>基本目標</u> 自然環境と産業の調和したまち <u>基本項目</u> 4. 豊かな自然と共生するまち ◎いこいの里山事業の再構築														
目 的 (期待される効果)	環境にやさしいまちづくりを推進し、次世代を担う子どもたちに豊かな自然を残すため、環境保全活動の取り組みを市民に広めていく。														
事業内容・手段	(1) 前平森林公園（新ひむかの森公園）の整備 会 場：前平森林公園周辺 実施日：毎月第1日曜日（8時～14時）12回/年 内 容：草刈り・枝おろし・公園入口及び道路脇の整備 (2) 一本桜植栽 会 場：前平森林公園周辺 実施日：令和6年2月21日（水） 内 容：田野中第77回卒業生代表3人による桜の植栽														
事業費	176,671円														
対象者	地域住民														
参加者数 (内訳)	<table><tr><td>年 度</td><td>令和5年度</td><td>令和4年度</td></tr><tr><td>一般参加者</td><td>15人</td><td>19人</td></tr><tr><td>スタッフ</td><td>111人</td><td>100人</td></tr><tr><td>合 計</td><td>126人</td><td>119人</td></tr></table>			年 度	令和5年度	令和4年度	一般参加者	15人	19人	スタッフ	111人	100人	合 計	126人	119人
年 度	令和5年度	令和4年度													
一般参加者	15人	19人													
スタッフ	111人	100人													
合 計	126人	119人													
住民の声（アンケートの結果等）	・「桜の名所」として認知度も上がり、花見に来る人が増えた。														

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項		評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度					本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A	いこいの場として今後も継続して整備していく必要あり。	事業の効果	⑤事業の周知	B	B	・ 田野紙 ・ SNS	
	②住民の参加	B	B	後半にかけて新たなメンバーが加わり、徐々にではあるが、参加数が増えてきてる。		⑥課題解決への作用	B	B	来場者が増加し、日本山岳会宮崎支部の協力も得た。	
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	B	B	いこいの里山として、トイレ、東屋、駐車場など整備し、徐々に認知されつつあるので継続していきたい。		⑦住民の満足度	B	B	ウォーキングする人や、散策・花見する人が増えて来ている。	
	④各種団体との連携	B	B	日本山岳会宮崎支部の協力を得ている。	事業継続の必要性				有 ・ 無	
良かった点・改善点等		<良かった点や改善した点等> ・ 3月に田野中生徒の遠足行事が実施され、里山の存在を広く周知できた。 ・ 今年度後半に自然環境部会への新入会員が徐々に増え始め、除草作業も活気を取り戻して来た。								
地域協議会からの意見への対応		<地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）> <意見への対応>						対応	未 ・ 済	
		<地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）> <意見への対応>						対応	未 ・ 済	

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

[4] 地域再生に係る事業

事業名	鰐塚山山開き事業	実施年数	12年目												
事業期間	開始：平成24年度	終了： 年度													
地域魅力発信 プランとの関連	基本目標 自然環境と産業の調和したまち 基本項目 4. 豊かな自然と共生するまち ◎わにつか溪谷の再生へ向けてのもみじ植栽・山開きの拡充														
目 的 (期待される効果)	田野町の象徴である鰐塚山の自然を市民に広く知ってもらうため、安全祈願祭を実施する。														
事業内容・手段	(1) 山開き安全祈願祭 会 場：鰐塚山登山道入口 実施日：令和5年4月16日（日） 内 容：登山道入口で、安全祈願祭を行った。 ※『新型コロナ5類感染症への移行前』の為、縮小して開催														
事業費	13,335円														
対 象 者	地域住民・登山者														
参加者数 (内訳)	<table><tr><td>年 度</td><td>令和5年度</td><td>令和4年度</td></tr><tr><td>一般参加者</td><td>20人</td><td>18人</td></tr><tr><td>スタッフ</td><td>5人</td><td>6人</td></tr><tr><td>合 計</td><td>25人</td><td>24人</td></tr></table>			年 度	令和5年度	令和4年度	一般参加者	20人	18人	スタッフ	5人	6人	合 計	25人	24人
年 度	令和5年度	令和4年度													
一般参加者	20人	18人													
スタッフ	5人	6人													
合 計	25人	24人													
住民の声（アンケートの結果等）	・鰐塚山登山を楽しみにしていた。安全祈願祭を終えて、今年も鰐塚山に何度かチャレンジしてみたい。 ・「イワザクラを見るのが楽しみ」という登山者が増えて来ている。														

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項		評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度					本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A	田野を象徴する鰐塚山の山開きは、町内外から望まれている。	事業の効果	広報	⑤事業の周知	B	B	・ 田野紙 ・ SNS
	②住民の参加	B	B	コロナ感染対策のため、縮小して行った。		⑥課題解決への作用	A	A	登山は自己責任であるが、山開き安全祈願祭を実施することは重要である。	
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	2005年の台風災害で途絶えていた山開きの実施は妥当であり、祈願祭の意義は大きい。		⑦住民の満足度	B	B	安全祈願祭のみの実施だが、この時期にイワザクラなどが見られ、登山客に好評である	
	④各種団体との連携	B	B	日本山岳会宮崎支部の会員が多く参加。		事業継続の必要性				有 ・ 無
良かった点・改善点等		＜良かった点や改善した点等＞ ・ 「山開き祈願祭」について、町外の登山者からの問い合わせが増えている。								
地域協議会からの意見への対応		＜意見への対応＞							対応	未 ・ 済
		＜地域協議会からの意見（平成 年 月 ・ ）＞ ＜意見への対応＞							対応	未 ・ 済

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

[4] 地域再生に係る事業

事業名	田野しっちゃんが祭り活性化事業	実施年数	11年目												
事業期間	開始：平成25年度	終了：	年度												
地域魅力発信 プランとの関連	<u>基本目標</u> 地域のつながり・教育・文化を大事にするまち <u>基本項目</u> 6. 行政に頼らない住民主導のスポーツ・文化活動の復活 ◎田野しっちゃんが祭り														
目的 (期待される効果)	田野しっちゃんが祭り時にお化け屋敷を開催し、祭りを盛り上げることに より、まちの活性化を図る。また、まちづくり協議会活動の周知に努め る。														
事業内容・手段	(1)感染症法上の分類が2類から5類に変更されたものの、まだリスクが ある為、昨年に引き続きお化け屋敷に代わる「テント屋台」を実施。 会 場： 田野総合支所前 実施日：令和5年7月15日(土)・16日(日) 内 容：コロナ感染防止の為、テント屋台を設営し、次の活動を実施 ①後藤館長制作による“謎の動物”の展示 ②子ども向けクジ引き ③プラ板・ハンダ付け体験														
事業費	135,921円														
対象者	地域住民														
参加者数 (内訳)	<table><tr><td>令和5年度</td><td>クジ引き</td><td>プラ板・ハンダ付け</td></tr><tr><td>一般参加者</td><td>656人(昨年270人)</td><td>82人(昨年18人)</td></tr><tr><td>スタッフ</td><td>5人</td><td>9人</td></tr><tr><td>合 計</td><td>661人</td><td>91人</td></tr></table>			令和5年度	クジ引き	プラ板・ハンダ付け	一般参加者	656人(昨年270人)	82人(昨年18人)	スタッフ	5人	9人	合 計	661人	91人
令和5年度	クジ引き	プラ板・ハンダ付け													
一般参加者	656人(昨年270人)	82人(昨年18人)													
スタッフ	5人	9人													
合 計	661人	91人													
住民の声（アン ケートの結果等）	・コロナ禍前と同じ二日間開催され、大人も子ども也大いに賑わい、以前 の活気を取り戻したように感じた。 ・二回目となるお化け屋台は多くの子ども達が来場し、大好評であった。 また、プラ板の『体験型』にも子ども達の注目が集まった。														

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A	お化け屋敷への期待も大きいですが、未知の動物についても子ども達のニーズに十分答えていた。	広報	⑤事業の周知	A	B	・ 広告チラシ ・ 田野紙 ・ SNS
	②住民の参加	B	B	今年度はお化けの制作・展示のみの為、住民の参加は出来なかった。	事業の効果	⑥課題解決への作用	A	A	今年もコロナ対策を課題とし、お化け屋敷からお化け屋台に変更した。
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	まつり時のお化け屋敷あるいはお化け屋台は子どもたち人気の催しのため、妥当である。		⑦住民の満足度	A	A	お化け屋敷ほどのスケールではなかったが、子ども達に十分なインパクトは与えられた。
	④各種団体との連携	B	B	児童センターとの連携		事業継続の必要性			
良かった点・改善点等		＜良かった点や改善した点等＞ ・ 今年も期待のお化け屋敷は中止となったが、それに代わるお化け屋台の他、新しい試みのプラ板体験が好評で、今後も「体験型」を模索して行きたい。							
地域協議会からの意見への対応		＜地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）＞ ＜意見への対応＞						対応	未 ・ 済
		＜地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）＞ ＜意見への対応＞						対応	未 ・ 済

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

[4] 地域再生に係る事業

事業名	田野駅活性化事業	実施年数	13年目												
事業期間	開始：平成23年度	終了： 年度													
地域魅力発信 プランとの関連	<u>基本目標</u> 自然環境と産業の調和したまち 地域のつながり・教育・文化を大事にするまち <u>基本項目</u> 4. 豊かな自然と共生するまち ◎冬限定の風物詩大根やぐらの継承 6. 行政に頼らない住民主導のスポーツ・文化活動の復活 ◎ライトアップ														
目 的 (期待される効果)	田野の玄関でもある田野駅をライトアップすることにより、地域活性化の機運を盛り上げる。														
事業内容・手段	(1) ライトアップ準備作業 実施日：令和5年6月～11月 内 容：イルミネーション点検・修理 (2) 田野駅ライトアップ 会 場：田野駅前広場 実施日：令和5年11月23日(木)：やぐら組立 令和5年11月25日(土)：イルミ飾付け 令和6年 1月28日(日)：やぐら撤去 内 容：田野の冬の風物詩である大根やぐらを組立て、手作りの大根型のイルミネーションを飾り付ける。 また、大根やぐら内側に田野小学校6年生・七野小学校6年生・田野中学校3年生の将来の夢短冊を飾った。 (3) 点灯式 会 場：田野駅前広場 実施日：令和5年12月1日(金) 内 容：田野中学校代表者による点灯式を行い、野外ライブを実施														
事業費	370,729円														
対象者	地域住民														
参加者数 (内訳)	<table><tr><td>年 度</td><td>令和5年度</td><td>令和4年度</td></tr><tr><td>一般参加者</td><td>110人</td><td>80人</td></tr><tr><td>スタッフ</td><td>70人</td><td>80人</td></tr><tr><td>合 計</td><td>180人</td><td>160人</td></tr></table> ※スタッフは準備から片付までの延べ人数			年 度	令和5年度	令和4年度	一般参加者	110人	80人	スタッフ	70人	80人	合 計	180人	160人
年 度	令和5年度	令和4年度													
一般参加者	110人	80人													
スタッフ	70人	80人													
合 計	180人	160人													
住民の声（アンケートの結果等）	・今回、小学生・中学生の参加が多く、楽しくスムーズに作業ができた。 ・婦人会の“振る舞い”のカレーが好評であった。														

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項	
		本年度	前年度				本年度	前年度		
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A	冬の風物詩「大根やぐら」に大根型のイルミを下げ、田野らしさの演出が期待されている。	広報	⑤事業の周知	A	A	・田野紙 ・SNS ・報道各社へ取材依頼した結果、ニュースに取り上げられた。	
	②住民の参加	A	A	小学生、中学生、田野総合支所、銀行そして地元住民の方の協力を得た。			事業の効果	⑥課題解決への作用	A	A
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	田野らしい「大根やぐら」のライトアップをすることで、冬の風物詩としての存在が定着化して来た。					⑦住民の満足度	A
	④各種団体との連携	A	A	田野小・七野小・田野中・婦人会・花まちづくり協議会・市役所等と連携している。	事業継続の必要性			有 ・ 無		
良かった点・改善点等		＜良かった点や改善した点等＞ ・準備・片付けに多くの小学生、中学生が参加。町をあげてのイベントとして定着しつつある。 ・マスコミ各社から取材、放映してもらい、町外からも来場者が増えた。								
地域協議会からの意見への対応		＜意見への対応＞						対応	未 ・ 済	
		＜地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）＞						対応	未 ・ 済	

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

[4 地域再生に係る事業]

事業名	特産品開発事業	実施年数	12年目												
事業期間	開始：平成24年度	終了： 年度													
地域魅力発信 プランとの関連	基本目標 自然環境と産業の調和したまち 基本項目 4. 豊かな自然と共生するまち ◎事業者との連携による新特産物の開発														
目 的 (期待される効果)	・生産者・飲食店と連携して特産品の開発に取り組む。 ・「干し野菜」と露地畑作の高度利用システムが日本農業遺産に認定されたことに伴い、干し野菜を使った特産品開発に取り組む。														
事業内容・手段	(1) 今回は、特産品開発に照準を当てて『視察研修』を実施 ①宮崎県食品開発センター 賞味期限・品質管理について研修 ②ママンマルシェ 開発・ものづくりの取り組み方の講習 (2) 一般消費者のアンケート調査を実施 “フライドはりはり”の試食&アンケートを通して、味覚・食感の好みについてリサーチを実施した。 水分活性(賞味期限)と好みを総合的に判断し、今後の方向性を決定して行く。 ・アンケート実施日：3月2日(土)・3日(日) ・場所：フローランテ宮崎(ひな祭り)														
事業費	29,868円														
対象者	地域住民、町外住民														
参加者数 (内訳)	令和5年度 <table><tr><td>年 度</td><td>(1)視察研修</td><td>(2)アンケート調査</td></tr><tr><td>参加者</td><td>11人</td><td>266人</td></tr><tr><td>スタッフ</td><td>3人</td><td>6人</td></tr><tr><td>合 計</td><td>14人</td><td>272人</td></tr></table>			年 度	(1)視察研修	(2)アンケート調査	参加者	11人	266人	スタッフ	3人	6人	合 計	14人	272人
年 度	(1)視察研修	(2)アンケート調査													
参加者	11人	266人													
スタッフ	3人	6人													
合 計	14人	272人													
住民の声 (アンケートの結果等)															

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項		評価項目		評価		特記事項	
		本年度	前年度					本年度	前年度		
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A	日本農業遺産の認定を受けたことにより、干し野菜を使った特産品の開発は重要。	広報 事業の効果	⑤事業の周知	B	B	・ 田野紙 ・ SNS		
	②住民の参加	B	B	特産品開発部に所属している飲食店・漬物生産会社が参加している。		⑥課題解決への作用	B	B	田野の特産品干し大根を使ったフライドはりはりの商品化を継続して実施する。		
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	B	B	長年継続して取り組んできたので、飲食店等との連携・協力をより強化していきたい。		⑦住民の満足度	B	B	フライドはりはりのリサーチを行い、多くの人に満足してもらえる商品作りを進める。		
	④各種団体との連携	B	B	商品化に向け、まず品質管理面で県商品開発センターとの連携が必要。		事業継続の必要性			有 ・ 無		
良かった点・改善点等		＜良かった点や改善した点等＞ ・ フライドはりはりの開発・商品化に向けて、宮崎県食品開発センターから食品保存試験・品質管理そして商品化について丁寧な、具体的な指導を受けて、漸く本格始動の第一歩を歩むことができた。									
地域協議会からの意見への対応		＜地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）＞ ＜意見への対応＞					対応		未 ・ 済		
		＜地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）＞ ＜意見への対応＞					対応		未 ・ 済		

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

[4 地域再生に係る事業]

事業名	田野マルシェ事業	実施年数	7年目																				
事業期間	開始：平成29年度	終了：	年度																				
地域魅力発信 プランとの関連	基本目標 自然環境と産業の調和したまち 基本項目 5. 地域力の充実と発信 ◎住民同士のきずな強化																						
目的 (期待される効果)	「干し大根やぐら」が日本農業遺産のシンボルに登録され、このイベントを通して田野町の特産品や伝統の魅力を広く伝え、老若男女が楽しく交流することを目的とする																						
事業内容・手段	昨年度に続き、当協議会・田野もりあげる研究所・日本農業遺産推進協議会及び協力団体として婦人連絡協議会・JA女性部・干し大根生産者による実行委員会を立上げ、『未来につなぐ農業遺産』をテーマに体験型マルシェを実施した。 (1) おTANOしみマルシェ 会 場：田野町あけぼの広場 実施日：令和5年11月12日(日) 内 容：・大根やぐらを設置/農業体験コーナー/ステージイベント等 ・今回初めての試みの腰イタ体操やプレイパーク、野菜つめ競争など、子どもからお年寄りまで楽しめる参加型を企画した。 ・合同及び各々の実行委員会を重ねて、各団体の役割分担、レイアウト、宣伝活動等々について綿密に打合せを実施。																						
事業費	189,417円																						
対象者	地域住民、町外住民																						
参加者数 (内訳)	<table><tr><td colspan="4">(1) おTANOしみマルシェ</td></tr><tr><td>年 度</td><td>令和5年度</td><td colspan="2">令和4年度</td></tr><tr><td>一般参加者</td><td>2,500人</td><td colspan="2">1,700人</td></tr><tr><td>スタッフ</td><td>30人</td><td colspan="2">30人</td></tr><tr><td>合 計</td><td>2,530人</td><td colspan="2">1,730人</td></tr></table>			(1) おTANOしみマルシェ				年 度	令和5年度	令和4年度		一般参加者	2,500人	1,700人		スタッフ	30人	30人		合 計	2,530人	1,730人	
(1) おTANOしみマルシェ																							
年 度	令和5年度	令和4年度																					
一般参加者	2,500人	1,700人																					
スタッフ	30人	30人																					
合 計	2,530人	1,730人																					
住民の声 (アンケートの結果等)	・子ども達からご老人まで幅広い催しがあり、「楽しかった」の声が多く聞かれた。 ・懐かしい『せんぐ撒き』で童心に戻って楽しめました、とのご意見。																						

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項		評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度					本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A	地域の若い世代からの要望が強く、マルシェを通して田野の魅力発信につながる。	事業の効果	⑤事業の周知	A	A	・新聞折込チラシ ・ポスター ・田野紙 ・SNS	
	②住民の参加	A	A	各種団体以外にも一般市民のボランティア参加が得られた。		⑥課題解決への作用	A	A	各団体の役割、時間割、レイアウト等を効率的に対処できた。	
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	各種団体が所属しているため、まちづくり協議会が取組むのは妥当である。		⑦住民の満足度	A	A	宣伝効果が出て、近隣のみならず遠方からも来場があり、特にファミリー層から好評を得た。	
	④各種団体との連携	A	A	今回、田野もりあがる研究所、JA青年部など多くの団体と連携した。	事業継続の必要性				有 ・ 無	
良かった点・改善点等		＜良かった点や改善した点等＞ ・今回も各団体の持ち味が役割分担に上手くはまって成功裏に終えた。来年度は単独開催が見込まれるので、総力を挙げて開催にこぎつけたい。								
地域協議会からの意見への対応		＜地域協議会からの意見（令和 年 月・事業報告）＞ ＜意見への対応＞						対応	未 ・ 済	
		＜地域協議会からの意見（令和 年 月・事業報告）＞ ＜意見への対応＞						対応	未 ・ 済	

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

[5 健康づくりに係る事業]

事業名	イベント共催事業	実施年数	15年目																				
事業期間	開始：平成21年度	終了：	年度																				
地域魅力発信 プランとの関連	基本目標 地域のつながり・教育・文化を大事にするまち 基本項目 6. 行政に頼らない住民主導のスポーツ・文化活動の復活 ◎太鼓フェスティバル ◎スポーツイベントの開催																						
目 的 (期待される効果)	マラソン大会を地区体育会と共催して行うことや太鼓フェスティバルにまち協ブースを出すことで、地域間交流・世代間交流を通し町の活性化を図る。 また、まちづくり協議会活動内容のPRにつなげる。																						
事業内容・手段	(1) 太鼓フェスティバル 会 場：田野運動公園 実施日：令和5年8月26日(土) 内 容：・実行委員会メンバーとして参加 ・会場内の協議会ブースでフライドはりはりの販売、冷茶のふるまい、まち協のPRを行った。 (2) マラソン大会【中止】 会 場：田野運動公園周辺 実施日：令和5年11月19日(日)の予定であったが、諸般の事情により中止となった。																						
事業費	7,164円																						
対 象 者	地域住民・町外住民																						
参加者数 (内訳)	<table><tr><td colspan="4">(1) 太鼓フェスティバル</td></tr><tr><td>年 度</td><td>令和5年度</td><td>令和4年度【中止】</td><td></td></tr><tr><td>一般参加者</td><td>10,000人</td><td></td><td>人</td></tr><tr><td>まち協スタッフ</td><td>12人</td><td></td><td>人</td></tr><tr><td>合 計</td><td>10,012人</td><td></td><td>人</td></tr></table>			(1) 太鼓フェスティバル				年 度	令和5年度	令和4年度【中止】		一般参加者	10,000人		人	まち協スタッフ	12人		人	合 計	10,012人		人
(1) 太鼓フェスティバル																							
年 度	令和5年度	令和4年度【中止】																					
一般参加者	10,000人		人																				
まち協スタッフ	12人		人																				
合 計	10,012人		人																				
住民の声 (アンケートの結果等)	・天気が荒れ模様となり、舞台演奏は何度か中断したが、多くの方が来場され、会場が賑わった。まち協ブースにおいては冷茶やフライドはりはりが好評。沢山のお客様に喜ばれた。																						

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A	町内外から多くの来場者があるイベントで、まちづくり協議会を広報することは重要である。	広報	⑤事業の周知	B	-	・新聞折込 ・SNS ・まち協便り
	②住民の参加	B	-	行事日程が重なり、マラソン大会の参加がすくなかった。	事業の効果	⑥課題解決への作用	B	-	まち協ブースの設置やユニフォーム着用でのスタッフ活動はまち協の周知活動に繋がっている。
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	田野の魅力発信、まちづくり活動の周知等、取組みとして妥当である。		⑦住民の満足度	B	-	大きなイベントに参加し、特設テントを設置することで、町内外へまち協を発信できる。
	④各種団体との連携	B	B	太鼓フェスティバル・マラソン大会実行委員会に入っているため、多くの団体と連携している。	事業継続の必要性				有 ・ 無
良かった点・改善点等		＜良かった点や改善した点等＞							
地域協議会からの意見への対応		＜地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）＞						対応	未 ・ 済
		＜意見への対応＞							
地域協議会からの意見への対応		＜地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）＞						対応	未 ・ 済
		＜意見への対応＞							

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

[6 地域教育に係る事業]

事業名	世代間交流事業	実施年数	9年目												
事業期間	開始：平成27年度	終了： 年度													
地域魅力発信 プランとの関連	基本目標 子どもから高齢者まで笑顔はぐくむまち 基本項目 1. 三世代交流 ◎町内に居住してる高齢者やさんさんクラブ会員を講師に招き、子どもたちと交流する														
目 的 (期待される効果)	田野町内の技術をもつ高齢者やさんさんクラブ会員を講師に招き、講話やもの作りを通じて交流を図り、高齢者の生きがい作りとともに子どもの豊かな心を育てる。														
事業内容・手段	会 場：田野児童センター (1) 子ども食堂 実施日：令和6年2月3日(土) (2) 人権DVD勉強会 実施日：令和6年2月20日(火) (3) 人権紙芝居 実施日：令和6年3月12日(火)														
事業費	19,000円														
対象者	地域住民														
参加者数 (内訳)	<table><tr><td>年 度</td><td>令和5年度</td><td>令和4年度</td></tr><tr><td>一般参加者</td><td>113人</td><td>97人</td></tr><tr><td>スタッフ</td><td>33人</td><td>17人</td></tr><tr><td>合 計</td><td>146人</td><td>114人</td></tr></table> ※人権紙芝居(3月12日)の人数は含んでいない。			年 度	令和5年度	令和4年度	一般参加者	113人	97人	スタッフ	33人	17人	合 計	146人	114人
年 度	令和5年度	令和4年度													
一般参加者	113人	97人													
スタッフ	33人	17人													
合 計	146人	114人													
住民の声(アンケートの結果等)	・第五類に移行後、感染症に注意をしながらも各行事が無事開催され、子ども達、ご父兄にも喜ばれている。														

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項		評価項目		評価		特記事項	
		本年度	前年度					本年度	前年度		
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A	田野の方を講師に招き、子どもたちとの交流の場になっている。	事業の効果	広報	⑤事業の周知	B	B	児童館にて広報	
	②住民の参加	B	B	児童センターで実施するため、未就学児童の親子や、子育て支援センターの子ども達の参加。			⑥課題解決への作用	A	A	子ども達も楽しんでおり、親子での参加も多く、地域との交流になっている。	
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	田野の技術を持った方と子ども達との交流は、取組む事業として妥当である。			⑦住民の満足度	B	B	参加した子ども達、親御さんには充分喜ばれていた。	
	④各種団体との連携	B	B	児童センター、さんさんクラブと連携している。		事業継続の必要性				有 ・ 無	
良かった点・改善点等		<良かった点や改善した点等>									
地域協議会からの意見への対応		<地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）>						対応	未 ・ 済		
		<意見への対応>									
地域協議会からの意見への対応		<地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）>						対応	未 ・ 済		
		<意見への対応>									

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

[6 地域教育に係る事業]

事業名	寺子屋事業	実施年数	8年目															
事業期間	開始：平成28年度	終了：	年度															
地域魅力発信 プランとの関連	基本目標 子どもから高齢者まで笑顔はぐくむまち 地域のつながり・教育・文化を大事にするまち 基本項目 1. 三世代交流 5. 地域力の充実と発信 8. 歴史・文化の啓発と伝承 ◎学校との連携 ◎子どもたちがいきいきと生活できる環境づくり																	
目的 (期待される効果)	TANO寺子屋チームと一緒に中学生を対象に勉強を教えると共に、地域のボランティアや大学生と交流することで、孤独感を感じることなく、いきいきと生活できる環境づくりを行う。																	
事業内容・手段	(1) 寺子屋オリエンテーション 実施日：令和5年7月8日(土) 内 容：大学生(1名)・まちづくり協議会との打合せ (2) 寺子屋勉強会 会 場：田野児童センター 2階ホール 実施日：令和5年7月～令和6年2月 毎週土曜日 10時～12時 実施日：26回 内 容：中学生を対象の勉強会。 今年度は、講師として大学生の他、高校生、退職校長会の参加を得られた。																	
事業費	180,725円																	
対象者	地域住民																	
参加者数 (内訳)	<table><tr><td>年 度</td><td>令和5年度</td><td>令和4年度</td></tr><tr><td>中学生</td><td>251人</td><td>179人</td></tr><tr><td>スタッフ</td><td>79人</td><td>47人</td></tr><tr><td>大学生・高校生</td><td>77人</td><td>28人</td></tr><tr><td>合 計</td><td>407人</td><td>254人</td></tr></table> ※退職校長会の延べ24人を講師には含んでいない。			年 度	令和5年度	令和4年度	中学生	251人	179人	スタッフ	79人	47人	大学生・高校生	77人	28人	合 計	407人	254人
年 度	令和5年度	令和4年度																
中学生	251人	179人																
スタッフ	79人	47人																
大学生・高校生	77人	28人																
合 計	407人	254人																
住民の声(アンケートの結果等)	・講師の大学生、高校生の親身に寄り添う教え方が生徒にも喜ばれており、塾とは異なる「寺子屋」らしい教育のあり方と評判も良い。																	

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A	中学生の学力の低下を抑制するため、塾に通えないような子どもたちも学習する場を設けている。	広報	⑤事業の周知	A	A	・中学校へチラシ配布 ・田野紙 ・SNS
	②住民の参加	B	B	寺子屋の認知度も年々上がって来ており、スタッフとしてPTAの参加も得られている。	事業の効果	⑥課題解決への作用	A	A	大学生の指導の下、皆で学習することで、孤独を感じることなく楽しい学習に打ち込んでいる。
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	TANO寺子屋チームとまち協スタッフとの連携が強化され、協力体制が構築されている。		⑦住民の満足度	A	A	クイズ方式で互いに教え合うなどの勉強法を工夫しており、子ども達は満足しているように見受けられる。
	④各種団体との連携	B	B	TANO寺子屋チームを中心に、大学・中学校と連携している。		事業継続の必要性			
良かった点・改善点等		＜良かった点や改善した点等＞ 大学生、高校生、田野退職校長会の講師の方々と生徒の関係が学校では見られない程の“家族的、友好的”なものであった。							
地域協議会からの意見への対応		＜地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）＞ ＜意見への対応＞						対応	未 ・ 済
		＜地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）＞ ＜意見への対応＞						対応	未 ・ 済

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

[7 その他の事業]

事業名	広報事業	実施年数	15年目
事業期間	開始：平成21年度	終了：	年度
地域魅力発信 プランとの関連	<u>基本目標</u> 自然環境と産業の調和したまち <u>基本項目</u> 5. 地域力の充実と発信 ◎田野紙を町内全戸配布することによる地域の情報発信		
目的 (期待される効果)	まちづくり協議会の取り組み、行事を広く住民に広報することにより、まちづくり協議会の認知度向上と取り組みへの参加を促すとともに、田野町の良いところの再確認を促す。		
事業内容・手段	(1) 田野紙の制作・ポスティングによる町域全戸配布(4,900戸) 実施日：3ヶ月毎に年4回発行(夏号・秋号・冬号・春号) 〈一面〉全面写真表紙(田野町内の四季を感じさせる風景) 〈二面〉教育子育て / 田野の話題の人・IUターンの人紹介 〈三面〉部会・関係団体紹介 / 催し物の紹介 / 田野史 〈四面〉掲示板 / お知らせ / クイズ (2) 学校・公共施設などへの配布 及び 支所・駅での掲示 (3) インスタグラムによる情報発信		
事業費	483,576円		
対象者	地域住民		
参加者数 (内訳)	※田野町全世帯に配布(年4回) 4,900世帯		
住民の声(アンケートの結果等)	・田野に住んでいながら知らないことが多く、毎回楽しみにしている。 ・Iターンの自分には、田野を知る大きな情報源となっています。 ・「田野の歴史」が分かって、懐かしい、始めて知ったとの意見が多い。		

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項		評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度					本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A	自治会未加入世帯にもポストに届くため、田野町全域に情報発信できる。	事業の効果	広報	⑤事業の周知	A	A	自宅のポストに配布。
	②住民の参加	B	B	田野紙を見て問い合わせも増え、住民との交流の足掛かりとなっている。			⑥課題解決への作用	A	A	町民に広く読んでもらえる広報誌を目指し、内容の充実、デザインの變更など、研究・努力している。
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	町内全世帯配布なので、内容を更に充実させ、田野の情報を継続して発信することが重要である。			⑦住民の満足度	A	A	全戸配布であり、町内に浸透して来た。また、楽しみにしているとお声を多くもらえている。
	④各種団体との連携	A	A	全世帯配布のため、各種団体より掲載依頼がある。また、情報を提供して頂くなど、多くの接点ができている。		事業継続の必要性				有 ・ 無
良かった点・改善点等		<良かった点や改善した点等> ・デザイン・レイアウト・表紙の一面写真への変更が好評である。 ・来年度に向けて、取材・原稿作成を担う人材が確保できた。								
地域協議会からの意見への対応		<地域協議会からの意見（令和元年5月・事業報告）> <意見への対応>							対応	未 ・ 済
		<地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）> <意見への対応>							対応	未 ・ 済

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が「未」の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が「済」になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

[7 その他の事業]

事業名	フォトカレンダー事業	実施年数	13年目									
事業期間	開始：平成23年度	終了：	年度									
地域魅力発信プランとの関連	基本目標 自然環境と産業の調和したまち 地域のつながり・教育・文化を大事にするまち 基本項目 4. 豊かな自然と共生するまち 5. 地域力の充実と発信 8. 歴史・文化の啓発と伝承 ◎田野町内の豊かな自然や名所・旧跡等の写真を募集し、カレンダーにすることにより、田野の良いところの再確認を促す。											
目的 (期待される効果)	田野を見つめ直す良い機会とするため、「田野」をテーマに写真を募集し、カレンダーを作成し配布する。											
事業内容・手段	(1) カレンダー作成 内 容：「田野」をテーマに写真を田野紙・SNS等で募集し、その中から優秀作品8点を選び、カレンダーを作成。 12月に自治会を通して配布を行った。 また、入賞者へ賞品の贈呈を行った。 ・写真応募締切：8月31日（木） ・印刷枚数：2,500枚											
事業費	130,178円											
対象者	地域住民・町外の希望者											
参加者数 (内訳)	<table><tr><td>年 度</td><td>令和5年度</td><td>令和4年度</td></tr><tr><td>応募点数</td><td>71点</td><td>84点</td></tr><tr><td>応募者人数</td><td>33人</td><td>31人</td></tr></table>			年 度	令和5年度	令和4年度	応募点数	71点	84点	応募者人数	33人	31人
年 度	令和5年度	令和4年度										
応募点数	71点	84点										
応募者人数	33人	31人										
住民の声（アンケートの結果等）	・田野町に永く住んでいても知らない所が多く、田野を再発見できて、毎年楽しみにしている。 ・田野町の四季折々が感じられて、我が家の室内インテリアにもなっている。											

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項		評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度					本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A	配布後の反応、手ごたえで地域の方に求められていることが分かる。		広報	⑤事業の周知	A	A	・ 田野紙 ・ ポスター掲示 ・ SNS
	②住民の参加	B	B	毎年応募する方や新たにメールで応募する方など、幅広い層に広がって来ている。		事業の効果	⑥課題解決への作用	A	A	「田野」をテーマに、田野らしいカレンダー作成に取り組んだ。
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	田野の魅力をフォトカレンダーで町内外へ発信することは、取組として妥当である。			⑦住民の満足度	A	A	自治会を通しての配布なので、自治会未加入の方も多く事務局に取りにみえる。
	④各種団体との連携	B	B	写真応募ポスターの掲示やカレンダー掲示を各種団体をお願いしている。		事業継続の必要性				有 ・ 無
良かった点・改善点等		＜良かった点や改善した点等＞ ・ カレンダーの字が小さいとのご指摘を受け、今回 文字サイズを少し大き目に変更した。皆さんの反応を聞くと、好評価を得ている。								
地域協議会からの意見への対応		＜地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）＞ ＜意見への対応＞						対応	未 ・ 済	
		＜地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）＞ ＜意見への対応＞						対応	未 ・ 済	

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

[7 その他の事業]

事業名	リーダー育成事業	実施年数	1年目								
事業期間	開始：令和5年度	終了： 年度									
地域魅力発信 プランとの関連	<u>基本目標</u> 地域のつながり・教育・文化を大事にするまち <u>7. 地域のリーダーづくり</u>										
目的 (期待される効果)	まちづくりのリーダーとなる人材を育成する為に、先進地を視察し、取り組みを学ぶと共に知識を深め、スキルアップにつなげる。										
事業内容・手段	(1) 視察研修 実施日：令和5年10月3日(火) 場 所：①宮崎県食品開発センター(佐土原町) ②ママンマルシェ(高鍋町) 内 容 ①食品開発事例や美味しさ・賞味期限の分析、フードラボ活用の説明を受ける。 ②九州内外で人気の“ゴボチ”の開発者和田社長から商品展開に至るまでの苦労話やものづくりについての考え方、手順の講義を受けた。 開発中の“フライドはりはり”を商品化するに当たり、「賞味期限問題」の解決糸口を見つけることが緊急課題であったが、具体的に商品を食品開発センターに持ち込み、『水分活性値』を測るなど、研究員の方から多くの助言を得たことにより、商品化への第一歩を踏み出すことが出来た。										
事業費	76,620円										
対象者	地域住民・宮崎県内外住民										
参加者数 (内訳)	令和5年度 <table><tr><td>年 度</td><td>(1) 視察研修</td></tr><tr><td>参加者</td><td>11人</td></tr><tr><td>スタッフ</td><td>3人</td></tr><tr><td>合 計</td><td>14人</td></tr></table>			年 度	(1) 視察研修	参加者	11人	スタッフ	3人	合 計	14人
年 度	(1) 視察研修										
参加者	11人										
スタッフ	3人										
合 計	14人										
住民の声 (アンケートの結果等)	・参加者の声： ①今回の研修により、色々なことが勉強できて良かった。 ②色んな所に研修を重ね、もっと見聞を拓げる必要性を感じた。										

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項		評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度					本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A		リーダー育成の為に先進地を実際に見聞き・研修する事は、今後の活動に繋がる。	事業の効果	広報	⑤事業の周知	B		・ 田野紙に掲載 ・ SNSに掲載
	②住民の参加	B		今回の研修内容が特定されていたので、参加者の多くが当該部会に限定された。		⑥課題解決への作用	A		研修の機会を設け、地域リーダーを育成することは大事なことである。	
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A		行政に頼らない住民主体の取り組みを模索することは妥当である。		⑦住民の満足度	A		毎年、研修目的・内容を変えて、広く参加を促していきたい。	
	④各種団体との連携	A		今回、商品開発センターと新たな接点が出来たので、今後に期待できる。		事業継続の必要性				有 ・ 無
良かった点・改善点等		＜良かった点や改善した点等＞ ・ 今回の研修により、食品開発の難しさと課題、そして 解決の糸口が見えて来たことは大収穫であった。								
地域協議会からの意見への対応		＜地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）＞ ＜意見への対応＞						対応	未 ・ 済	
		＜地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）＞ ＜意見への対応＞						対応	未 ・ 済	

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

[7 その他の事業]

事業名	まちづくり協議会運営事業	実施年数	15年目
事業期間	開始：平成21年度	終了：	年度
地域魅力発信 プランとの関連	<u>基本目標</u> 子どもから高齢者まで笑顔はぐくむまち 自然環境と産業の調和したまち 地域のつながり・教育・文化を大事にするまち		
目的 (期待される効果)	住民主体のまちづくり実現のため、役員会や各部会の開催や、広報活動など、田野まちづくり協議会の円滑な運営を行う。		
事業内容・手段	(1) 田野まちづくり協議会における会議、事業等に係る業務 実施日：令和5年4月～令和6年3月 内 容：・総会・役員会・合同部会・各部会等の資料作成、出席 ・各事業に係る資料作成、準備、出席 ・会議・イベント開催連絡、延期・中止連絡 (2) 各種書類作成及び手続き業務 実施日：令和5年4月～令和6年3月 内 容：・事業計画・実績報告等の書類作成、提出 ・市役所等からの調査への回答 (3) 会計に関する業務 実施日：令和5年4月～令和6年3月 内 容：・地域コミュニティ活動交付金活用事業に関すること ・地域まちづくり事務局運営補助金に関すること (4) 会員募集に関する業務 実施日：令和5年4月～令和6年3月 内 容：・まちづくり会員の募集 ・キッズ会員の募集 田野小・七野小・田野中に募集チラシ配布 キッズ会員カードの作成・事業案内等		
事業費	954,853円		
対象者			
参加者数 (内訳)			
住民の声（アンケートの結果等）			

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A	まちづくり協議会の運営、活動を進めるためにも必要である。	広報	⑤事業の周知	A	A	・田野紙掲載 ・各イベントでの写真紹介 ・ポスター掲示
	②住民の参加	A	A	町内外からの問合せ、各種団体からの問い合わせなど対応している。	事業の効果	⑥課題解決への作用	A	A	常に会員、各種団体、市役所と連携し、情報交換している。
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	まちづくり協議会運営をするには必要である。		⑦住民の満足度			
	④各種団体との連携	A	A	各種団体からの会員も多く、各種団体の事業へも参加している。	事業継続の必要性				有 ・ 無
良かった点・改善点等		<良かった点や改善した点等>							
地域協議会からの意見への対応	<地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）>								
	<意見への対応>				対応		未 ・ 済		
地域協議会からの意見への対応	<地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）>								
	<意見への対応>				対応		未 ・ 済		

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

(様式第 6 号)

事業別収支計算書

田野地域自治区

田野まちづくり協議会

事業名	防犯・防災事業
-----	---------

(1) 収入の部

(単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	地域コミュニティ活動交付金	94,012	
2			
3			
4	合計 (A)	94,012	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内 訳
1	賃金・手当		
2	報償費・謝金		
3	旅費・費用弁償		
4	需用費	28,672	青パトガソリン 22,576円 お茶代 6,096円
5	役務費	52,440	青パト任意保険 52,440円
6	委託料		
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	公課費	12,900	青パト自動車税
12	合計 (B)	94,012	

収支差額 (A) - (B)	0
----------------	---

(様式第6号)

事業別収支計算書

田野地域自治区

田野まちづくり協議会

事業名	健康ふくしまつり共催事業
-----	--------------

(1) 収入の部

(単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	地域コミュニティ活動交付金	18,373	
2			
3			
4	合計 (A)	18,373	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内 訳
1	賃金・手当		
2	報償費・謝金		
3	旅費・費用弁償		
4	需用費	18,373	消耗品費 16,873円 お茶・弁当代 1,500円
5	役務費		
6	委託料		
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計 (B)	18,373	

収支差額 (A) - (B)	0
----------------	---

(様式第 6 号)

事業別収支計算書

田野地域自治区

田野まちづくり協議会

事業名	福祉共催事業
-----	--------

(1) 収入の部

(単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	地域コミュニティ活動交付金	45,603	
2			
3			
4	合計 (A)	45,603	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内 訳
1	賃金・手当		
2	報償費・謝金		
3	旅費・費用弁償		
4	需用費	45,603	消耗品費 15,238円 弁当・お茶代 30,365円
5	役務費		
6	委託料		
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計 (B)	45,603	

収支差額 (A) - (B)	0
----------------	---

(様式第6号)

事業別収支計算書

田野地域自治区

田野まちづくり協議会

事業名	高齢者・認知症サポート支援事業
-----	-----------------

(1) 収入の部

(単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	地域コミュニティ活動交付金	6,120	
2			
3			
4	合計 (A)	6,120	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内 訳
1	賃金・手当		
2	報償費・謝金		
3	旅費・費用弁償		
4	需用費	6,120	お茶代 6,120円
5	役務費		
6	委託料		
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計 (B)	6,120	

収支差額 (A) - (B)	0
----------------	---

(様式第6号)

事業別収支計算書

田野地域自治区

田野まちづくり協議会

事業名	いこいの里山づくり事業
-----	-------------

(1) 収入の部

(単位: 円)

番号	項目	金額	備考
1	地域コミュニティ活動交付金	176,671	
2			
3			
4	合計 (A)	176,671	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内 訳
1	賃金・手当		
2	報償費・謝金		
3	旅費・費用弁償		
4	需用費	139,784	消耗品費 17,518円 樹木プレート代 5,000円 苗木代 29,000円 燃料費 3,500円 弁当・お茶代 84,766円
5	役務費	23,760	活動傷害保険 23,760円
6	委託料	9,267	トイレ汲取り 9,267円
7	使用料及び賃借料	3,860	タクシー借上代 3,860円
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計 (B)	176,671	

収支差額 (A) - (B)	0
----------------	---

(様式第6号)

事業別収支計算書

田野地域自治区

田野まちづくり協議会

事業名	鰐塚山山開き事業
-----	----------

(1) 収入の部

(単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	地域コミュニティ活動交付金	13,335	
2			
3			
4	合計(A)	13,335	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金・手当		
2	報償費・謝金		
3	旅費・費用弁償		
4	需用費	13,335	材料費 13,335円
5	役務費		
6	委託料		
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計(B)	13,335	

収支差額(A) - (B)	0
---------------	---

(様式第6号)

事業別収支計算書

田野地域自治区

田野まちづくり協議会

事業名	田野しっちゃんが祭り活性化事業
-----	-----------------

(1) 収入の部

(単位:円)

番号	項目	金額	備考
1	地域コミュニティ活動交付金	70,321	
2	参加者負担金	65,600	
3			
4	合計(A)	135,921	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金・手当		
2	報償費・謝金		
3	旅費・費用弁償		
4	需用費	135,921	お茶・弁当代 21,252円 材料費 114,669円
5	役務費		
6	委託料		
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計(B)	135,921	

収支差額(A) - (B)	0
---------------	---

(様式第6号)

事業別収支計算書

田野地域自治区

田野まちづくり協議会

事業名	田野駅活性化事業
-----	----------

(1) 収入の部

(単位:円)

番号	項目	金額	備考
1	地域コミュニティ活動交付金	260,729	
2	寄附金	110,000	田中漬物・桜屋旅館
3			
4	合計(A)	370,729	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金・手当		
2	報償費・謝金	2,000	点灯式司会料
3	旅費・費用弁償		
4	需用費	286,001	LED購入費 95,186円 材料費 41,027円 イルミ・短冊材料 93,875円 弁当・お茶代 24,534円 消耗品費 23,679円 やぐら用竹 7,700円
5	役務費	23,328	保険 17,880円 電気料 5,448円
6	委託料	59,400	電気架設 59,400円
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計(B)	370,729	

収支差額(A) - (B)	0
---------------	---

(様式第6号)

事業別収支計算書

田野地域自治区

田野まちづくり協議会

事業名	特産品開発事業
-----	---------

(1) 収入の部

(単位:円)

番号	項目	金額	備考
1	地域コミュニティ活動交付金	29,868	
2			
3			
4	合計(A)	29,868	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金・手当		
2	報償費・謝金		
3	旅費・費用弁償		
4	需用費	29,868	材料費 27,600円 消耗品費 2,268円
5	役務費		
6	委託料		
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計(B)	29,868	

収支差額(A) - (B)	0
---------------	---

(様式第 6 号)

事業別収支計算書

田野地域自治区

田野まちづくり協議会

事業名	田野マルシェ事業
-----	----------

(1) 収入の部

(単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	地域コミュニティ活動交付金	189,417	
2			
3			
4	合計 (A)	189,417	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内 訳
1	賃金・手当		
2	報償費・謝金		
3	旅費・費用弁償		
4	需用費	40,748	弁当・お茶代 16,030円 消耗品費 10,035円 材料費 14,683円
5	役務費	8,460	保険 8,460円
6	委託料	91,699	音響・チラシ作成 91,699円
7	使用料及び賃借料	48,510	仮設トイレ賃借料 48,510円
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計 (B)	189,417	

収支差額 (A) - (B)	0
----------------	---

(様式第6号)

事業別収支計算書

田野地域自治区

田野まちづくり協議会

事業名	イベント共催事業
-----	----------

(1) 収入の部

(単位:円)

番号	項目	金額	備考
1	地域コミュニティ活動交付金	7,164	
2			
3			
4	合計(A)	7,164	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金・手当		
2	報償費・謝金		
3	旅費・費用弁償		
4	需用費	7,164	消耗品費 7,164円
5	役務費		
6	委託料		
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計(B)	7,164	

収支差額(A) - (B)	0
---------------	---

(様式第6号)

事業別収支計算書

田野地域自治区

田野まちづくり協議会

事業名	世代間交流事業
-----	---------

(1) 収入の部

(単位:円)

番号	項目	金額	備考
1	地域コミュニティ活動交付金	19,000	
2			
3			
4	合計(A)	19,000	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金・手当		
2	報償費・謝金	19,000	講師料(人権勉強会)
3	旅費・費用弁償		
4	需用費		
5	役務費		
6	委託料		
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計(B)	19,000	

収支差額(A) - (B)	0
---------------	---

(様式第6号)

事業別収支計算書

田野地域自治区
田野まちづくり協議会

事業名	寺子屋事業
-----	-------

(1) 収入の部 (単位: 円)

番号	項目	金額	備考
1	地域コミュニティ活動交付金	180,725	
2			
3			
4	合計 (A)	180,725	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内 訳
1	賃金・手当		
2	報償費・謝金	138,000	講師料 延べ77人
3	旅費・費用弁償		
4	需用費	42,725	お茶代 39,919円 消耗品費 2,806円
5	役務費		
6	委託料		
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計 (B)	180,725	

収支差額 (A) - (B)	0
----------------	---

(様式第6号)

事業別収支計算書

田野地域自治区

田野まちづくり協議会

事業名	広報事業
-----	------

(1) 収入の部

(単位: 円)

番号	項目	金額	備考
1	地域コミュニティ活動交付金	100,526	
2	繰越金	383,050	
3			
4	合計 (A)	483,576	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金・手当		
2	報償費・謝金		
3	旅費・費用弁償		
4	需用費	161,540	印刷製本費4回分 134,540円 景品代 12,000円 消耗品費 15,000円
5	役務費	2,200	振込手数料 2,200円
6	委託料	319,836	ポスティング4回分 319,836円
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計 (B)	483,576	

収支差額 (A) - (B)	0
----------------	---

(様式第6号)

事業別収支計算書

田野地域自治区

田野まちづくり協議会

事業名	フォトカレンダー事業
-----	------------

(1) 収入の部

(単位:円)

番号	項目	金額	備考
1	地域コミュニティ活動交付金	130,178	
2			
3			
4	合計(A)	130,178	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金・手当		
2	報償費・謝金		
3	旅費・費用弁償		
4	需用費	128,500	印刷製本費 104,500円 @38円×2,500枚×1.1 賞品代 24,000円
5	役務費	1,678	送料 1,128円 振込手数料 550円
6	委託料		
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計(B)	130,178	

収支差額(A) - (B)	0
---------------	---

(様式第6号)

事業別収支計算書

田野地域自治区

田野まちづくり協議会

事業名	リーダー育成事業
-----	----------

(1) 収入の部

(単位:円)

番号	項目	金額	備考
1	地域コミュニティ活動交付金	76,620	
2			
3			
4	合計(A)	76,620	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金・手当		
2	報償費・謝金		
3	旅費・費用弁償		
4	需用費	15,100	お茶・弁当代 15,100円
5	役務費		
6	委託料		
7	使用料及び賃借料	61,520	バス賃借料 61,520円
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計(B)	76,620	

収支差額(A) - (B)	0
---------------	---

(様式第 6 号)

事業別収支計算書

田野地域自治区

田野まちづくり協議会

事業名	まちづくり協議会運営事業
-----	--------------

(1) 収入の部

(単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	地域コミュニティ活動交付金		
2	繰越金	954,828	
3	自己資金	25	
4			
	合計 (A)	954,853	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内 訳
1	賃金・手当	165,918	事務局長 61,921円 事務局職員 103,997円
2	報償費・謝金		
3	旅費・費用弁償	36,000	役員・部会員 @3,000円×12名=36,000円
4	需用費	132,978	両面黒板 8,448円 パーティーション 22,620円 @7,540円×3個 インクカートリッジ7,441円 消耗品費 94,469円
5	役務費	125,867	電話・ネット 106,373円 切手・はがき 14,534円 火災保険 4,960円
6	委託料	17,160	パソコン設定費
7	使用料及び賃借料	335,360	コピー機リース 327,360円 車両賃借料 @500円×16回=8,000円
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費	141,570	パソコン 91,190円 スマートモバイル 50,380円
11	積立金		
12	合計 (B)	954,853	

収支差額 (A) - (B)	0
----------------	---

(様式第7号)

積立金管理状況報告書

田野地域自治区

田野まちづくり協議会

積立金名称	災害時積立金
-------	--------

積立金の収支 (単位：円)

番号	項 目	金 額	備 考
1	前年度までの積立額	598,874	
2	積立額	0	
3	利息	4	
4	取崩額	0	
	合 計	598,878	

積立金名称	
-------	--

積立金の収支 (単位：円)

番号	項 目	金 額	備 考
1	前年度までの積立額		
2	積立額		
3	取崩額		
	合 計	0	

積立金名称	
-------	--

積立金の収支 (単位：円)

番号	項 目	金 額	備 考
1	前年度までの積立額		
2	積立額		
3	取崩額		
	合 計	0	

(様式第9号)

宮崎市地域コミュニティ活動交付金繰越届出書

令和 6 年 3 月 2 5 日

宮 崎 市 長 殿

主たる事務所の所在地	宮崎市田野町甲2818番地
名 称	田野まちづくり協議会
代 表 者 の 氏 名	会長 松浦 繁盛
電 話 番 号	0985-69-0515

令和5年3月31日付で交付決定のありました地域コミュニティ活動交付金については、決算において 1,454,338円の残金があり、繰越金として次年度の会計へ繰り越しますので届け出ます。

添 付 書 類

令和5年度収支決算（見込）書

令和5年度 田野地域まちづくり協議会への意見書〔事業実施報告〕

田野地域自治区地域協議会
会長 黒木 光春

令和5年度の田野地域自治区の地域まちづくり事業実施報告及び収支決算について、事業計画及び収支予算に沿って適正に執行されていたので、承認いたします。

なお、承認に際し、下記の意見がありましたので、対応を検討いただきますようお願いいたします。

記

1. 総括

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の取り扱いが、5類に位置付けられたこともあり、事業計画どおり全事業を実施していただいた。引き続き、地域魅力発信プランに基づき、地域の特色を生かした、田野らしいまちづくりに取り組んでいただきたい。

2. 事業の推進体制

部会員の高齢化および固定化といった課題が挙げられるが、引き続き、事業の削減や見直し、新たな部会員の確保や募集等を行い、円滑に事業が実施できるよう進めていただきたい。

3. 各事業への意見（意見のある事業のみ記載）

事業名	意見
広報事業	田野地域においては、まちづくり協議会が地域の各種団体等の中心的な存在であり、事務局職員がいるのも強みである。 また、広報誌「田野紙」の発行については、ポスティングにより全戸配布している素晴らしい事業である。 現在、広報誌関係については、自治会等を通じての配布がほとんどあり、全戸配布しているものはないことから、まちづくり協議会の「田野紙」に、地域の各種団体等の紹介やイベント等の掲載をするなど、情報の一元化（集約）について検討していただきたい。

4. その他

備品については、「宮崎市地域コミュニティ活動交付金運用マニュアル」に示してある様式を参考に、備品管理台帳を作成しているようだが、購入日だけでなく廃棄日についても記入するように改善していただきたい。

また、備品の適正管理という観点からも、台帳と現物との整合性を図るチェック作業を定期的の実施するようお願いしたい。